

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	住民間の意思疎通が促進され、村落開発により住民の生活環境が改善される。
(2) 事業内容	<p>●コミュニティ センター建設 ICAが村落開発委員会と現地パートナー団体と協議し、開発が遅れ且つ住民の協力意欲の高い3ヶ村（Korlahi村、Jamuaha村、Sukhasan村）に現在コミュニティセンターを建設中である。日本人建築専門家が6月11日から20日まで現地に派遣された。 当初予定していた3ヶ村の内、Ranipatti村は土地の確保に時間がかかる事がわかったため、既に土地を確保できていたSukhasan村に変更した。</p> <p>●コミュニティセミナーの開催： 村落開発セミナーを通して、カーストを超えた連帯感が強まり、且つ住民の収入向上が達成できるように以下のセミナーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モビリゼーションセミナー：参加者と事業内容を確認し、地域住民及び関係者間の理解が深まった。長年の夢がついに実現するという驚きと喜びが住民の中に見られた。第1回：4月19日～22日に現地マネージャーが実施した。第2回目は日本人専門家が出席した。参加者数：6月13日 Korlahi村89人、6月14日Jamuaha村62人、6月15日Sukhasan村62人</li> <li>・ コミュニティー開発セミナー：専門家の佐藤がコミュニティ形成プログラムを3ヶ村で説明後、グループに分かれて村の問題点と解決策を住民同士で討議し全体発表をした。日本の女性がインドの男女の前でセミナーを指導したことは、女性でも指導が出来るというイメージ変化をもたらし、村落特有のジェンダー問題を考える機会となった。以後女性も会議で意見を言えるように変化した。参加者の文盲率が95% という村の現状に直面して、このプロジェクトの重要性を痛感する。参加者：6月14日Jamuaha村62人、6月15日Sukhasan村62人、6月16日Korlahi村97人</li> <li>● リーダーシップセミナー：11月に実施予定。</li> <li>● 農業研修（水耕栽培）：6月7日～21日に専門家伊澤が3ヶ村の農民、カウンターパート、加えて農業省職員7名に水耕栽培研修を実施した。農民に指導出来る人材を育成するため農業省には自費で研修を実施した。伊澤氏は現地調査後、自吸式ポット型水耕栽培を推薦した。自吸式ポット型水耕栽培（別紙参照）は自作耕地をもたない小作農民が家のまわりで、葉菜類（葉レタス、ハーブ等）、果菜類（トマト、ナス、キュウリ等）を収穫出来、健康補充野菜栽培に適し、ポット数を増やせば換金作物栽培農業も可能となる。洪水で土砂の堆積した耕作不適地や、電気が無い地域でも栽培が出来るのが特徴である。</li> <li>● 能力向上トレーニング及び啓蒙活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイクロファイナンス研修：10月に実施予定。</li> <li>・ 農業トレーニング：有機農業指導を11月と2月に実施予定。</li> <li>・ 青年の技術訓練：10ヶ村で公募した18～20歳の男子12人をコルカタのトレーニングセンターに派遣した。各自選んだ技術訓練（電子機器の修理、電気技師、鉄道技師の3種類）を受けている。</li> <li>・ 災害防止準備トレーニング：防災トレーナーを派遣し、8/23-25に大洪水の振り返り、災害への備え、緊急時の連絡体制、村落開発委員会の役割、応急処置、外からの支援への対応などについて訓練を行った。</li> <li>・ 子供のケアについて学校の先生を対象としたトレーニング：10月予定。</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路上講演（演劇による啓蒙活動）：参加者の少年達は8/20-25に講師との話し合いによりストーリー構成や台詞を練り、演技指導を受け練習した。最終日には1ヶ村で初回公演を行い、不正に対しては識字と団結が必要である事を啓蒙した。講師率いるプロの演劇グループが村で実演するのも見て学んだ。今後も練習と公演を重ね、新しい劇を作り、メンバーを増やして活動を続ける。</li> </ul>
<p>(3) 達成された効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>コミュニティーセンター建設</u>：3ヶ村（Korlahi村、Jamuaha村、Sukhasan村）の住民が参加し、日本人専門家がデザイン、期間、目的などを説明、住民はカースト間を超えた会議の開催が可能となることを実感した。</li> <li>・<u>モビリゼーションセミナー</u>：地域が一体となってコミュニティ開発をするように関係者の理解を求めた。大勢の参加者は連帯意識を深めた。＜指標＞70%以上が内容を理解した。＜達成度＞予定参加者は50人に対して各村で60人～89人が参加した。</li> <li>・<u>コミュニティー開発セミナー</u>：今まで家から出て話す機会のなかったローカーストの女性、小作農民が初めてセミナーに参加し、自分の将来の生計向上や子供の教育、搾取、ジェンダー等の問題をシェアしたことは大きな進歩である。＜指標＞70%以上がセミナーの内容を理解したが、字の読めない人は読める人が模造紙に書いて説明を加えた。＜達成度＞60人の参加予定に対し平均73名が参加。</li> <li>・<u>リーダーシップ研修</u>：11月に実施予定。</li> <li>・<u>農業研修</u>：自吸式ポット型水耕栽培で農民が自分の家の周りで「葉菜類、果菜類」が出来ることは直接家族への収入向上につながることで、洪水被害で耕作不適地となった場所でも水耕栽培が可能なることを知って、これらを実現するとマデープラ地域は本当に変わると水耕栽培に意欲を示した。マデープラ郡農業省からは水耕栽培は将来的には必ず必要になるので継続して技術指導を受けたいとの要請があった。＜指標＞参加した農民の50%は理解を示した。農業省の職員は80%内容を理解し、農業省の敷地内にある実験農場での水耕栽培を要望した。＜達成度＞水耕栽培についてパワーポイントで説明し、農民、HCDIと農業省は強い興味を示した。次回11月に農民へ技術指導をする。</li> <li>・<u>青年の技術訓練</u>：コルカタ市にあるSt. Peter's Vocational Trainig学校に予定どおり12名の訓練生を派遣した。＜指標＞参加数は100%である。</li> <li>・<u>防災トレーニング</u>は以下の日程で、Mr. Anjan BagをCARITASから招聘し3日間訓練を行った。参加者10ヶ村の村落開発委員、女性自助グループ、農家自助グループ、青年リーダー、子供議会メンバーを対象とした。 8月23日 Ranipatti, Gidrahi, Jamuaha 村 72人、 8月24日 Korlahi, Sukhasan, Rohta 村 97人、 8月25日 Gopalpura, Haribola, Barahkurva, Charbarkurbi村103人</li> <li>・<u>路上講演</u>：子供議会から選定した青少年（14～20歳男子）が6日間のトレーニングを受けた。参加者数：8月20日16人、8月21日15人、8月22日12人、8月23日10人、8月24日8人、8月25日6人。</li> </ul>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動は予定通り実施しているので、より効果を高めるためのフォローアップを続ける。</li> </ul>